

次々と才能を発掘する名伯楽 リシャール・ミルの偉業

今回、ついに完成した機械式天文時計「プラネタリウム・テルリウム」とともに来日したのはリシャール・ミルではなく、ひとりの独立時計師であった。その名はクリスチャン・エティエンヌ。彼がこれまでに関わったプロジェクトには錚々たるブランドの複雑時計やユニークピースが名を連ねる。そのなかでも際立って複雑かつ時間を要したのがこの天文時計だという。

「実は、このプラネタリウム・テルリウムを設計したのはロベール・グルーベルとステファン・フォーシイなので、彼らがまだルノー・エ・バビに所属していた1993年、それまで培ってきた自分たちの技量とノウハウを生かすために始めたのが、このプロジェクトです。もちろん、惑星の運行は非常に複雑なものですから、専門のエンジニアと組んで基本設計をしました。開発と設計に3年、プロトタイプ製作に7年、合計10年かかりました」

1999年、グルーベルとフォーシイは相次いでルノー・エ・バビを去り、2001年にふたりで時計工房「コンプリタイム」を設立した。プロトタイプが完成したのは、コンプリタイム設立後の2003年のことであった。元来、販売を目的とした開発ではなかったが、コンプリタイムでそのプロトタイプを目にしたリシャール・ミルが非常に興味を示し、ユニークピースとしての製作をグルーベル・フォーシイに依頼したという。特許を含む設計図とそのプロトタイプ、そしてパーツ類をグルーベル・フォーシイから買い取ったことから、当初から彼がいかに本気であったかがうかがえる。

「2003年、グルーベル・フォーシイから私のもとにプラネタリウム・テルリウムの組み立てと調整の依頼がありました。というのも、かつて私はルノー・エ・バビの求人に応募したことがあり、その時、面接を担当したのがグルーベルで、当時のコンプリケーショングループの責任者がフォーシイだったのです。その面接の際、私が提示した案件は自分のアトリエで作業することで

した。結局、ルノー・エ・バビの社員にはならず、彼らから依頼のあった仕事を請け負うようになったのですが、ふたりとはそれ以来の知り合いで、彼らが設計したこの複雑なプラネタリウム・テルリウムの組み立てと調整ができる時計師として、私のことを信頼し、依頼してくれたのです」

仕事を受けたエティエンヌ氏のもとに少しずつパーツが到着し、機構ごとに組み立て、徐々にこの天文時計が姿を現しはじけると、彼はあることに気が付いた。このモダンなデザインはリシャール・ミルではないか、と。

「そのことをグルーベル・フォーシイに尋ねると、彼らは率直にそれを認め、その後、リシャール・ミル本人から正

クリスチャン・エティエンヌ。1986年、時計学校卒業後、ビエンヌのコレックスに入社するも2カ月半の研修期間の終了とともに退社。ローザンヌの時計店に1年半勤めた後、独立。以後、独立時計師として、ルノー・エ・バビや大手ブランドから仕事を請け負う一方、アンティークピースの修復も手がける。現在、43歳。